

息子たちの質問から動き始めた



きっかけは、息子たちのまっすぐな質問だった。「何のために勉強しているの？」。

17年前、長男は高校受験、次男は中学受験を控えていた。菅原亜樹子さん(59)は川崎市麻生区に「子どもたちに適切な答えを与えられないことに焦りを感じた」と話す。

菅原さんは大学卒業後、銀行に1年余り勤め、結婚を機に退職。主婦である自分が子どものために何ができるかを

30人のインタビュー 一冊の本に

NPO法人代表 菅原亜樹子さん(59)



著書を手にする菅原亜樹子さん＝川崎市麻生区

考えた結果、思い付いた。第一線で活躍する職業人に職に就くまでの努力や仕事のやりがいなどを尋ねて本にまとめ子どもに読ませよう、と。

菅原さんは大学卒業後、銀行に1年余り勤め、結婚を機に退職。主婦である自分が子どものために何ができるかを

に、「『やる』と決めたら、実行しないと気が済まない性格」と話す。

「業界のルールも何も知らなかったから出来た」と振り返り、プロ野球選手やパティシエ、医師など各界の著名人に

- 1959年 東京都で生まれる
- 3～6歳 ニューヨークで暮らす
- 22歳 大学卒業後、銀行に入社
- 23歳 結婚を機に退職
- 27歳 長男出産
- 30歳 次男出産
- 42歳 息子の悩みに答えようと、一流の職業人へのインタビュー開始
- 43歳 インタビュー本を自費出版、講演活動開始
- 47歳 仲間と「夢さがしプロジェクト」を立ち上げる。後に団体はNPO法人に。
- 58歳 キャリアコンサルタントの国家資格を取得

取材を受けてもらった。

音楽家の坂本龍一氏も自分を相対的に考えられる視点が大切」という言葉は忘れられないという。

大学時代の先輩の協力を得て、取材開始から約1年後に30人のインタビューをまとめた著書「夢さがしエトセトラ」が完成した。雑誌などで本が紹介され、各地の小中学校から「夢の見つけ方」や「親子の関わり方」などの講演依頼が相次ぐようになった。

となり、その後も取材を続けて出版社から5冊を出版。2006年には同世代の主婦たちで「夢さがしプロジェクト」を立ち上げた。12年にNPO法人(本部・港区南青山2丁目)の認証を受け、活動の幅を広げている。

かつて進路に悩んでいた息子たちが自分で選んだ道に進んでいる今、菅原さんはキャリアコンサルタントの国家資格を生かし、幅広い世代に様々な生き方を提案しようと考えている。

「たくさんの人にトップラナーの言葉を伝えることが私の使命です」(京谷奈帆子)

◆「Aging Gracefully」をテーマに、優雅に年を重ねる女性を応援する連載です。